④うまみち(馬佐)

むかし大閤秀吉が、馬佐峠のちかくで、馬をたくさんつれてきて、演習をしていたそうである。

演習がおわって、いざかえろうとすると、馬が一頭たりない。

それでみんなであちこちとさがしたが、なかなかみつからなかった。

さんざんさがしたあげく、その一頭が、一つの谷のどんづまりのところにいるのが、やっとみつかって、馬さがしがおわった。そこでそのことが、小字の地名の起りになるわけであるが、今でもその谷のどんづまりと、そこをとりまいているまわりの山々のことを、うまみちと呼んでいるそうである。